

	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活 援 助 機 能	安全・衛生の確保	帰館・帰宅時の安全指導	入学式までは保護者に送迎をお願いし、学校生活が始まってからは登録と保護者の希望に合わせ、集団下館もしくは本館迎えにする。本館迎えの子どもには必ず1～2名の職員が同行し、子どもの安全に努めた。また、集団下館の子どもは帰宅コースごとに上級生が1年生を間に挟む形で、子どもたち自身も互いに安全に帰ることができるよう指導する。4月は各コースに職員が同行し、ポイントごとに安全確認のやり方を教えた。保護者との連絡を密にしながら、時には迎えに来られた保護者にも同行をお願いし、子どもたちが集団で帰る様子を一緒に見守っていた。帰りの会では帰宅コースごとに一列に並んで座り、分室を出る際はコース毎に、ホワイトボードに自分で貼ったQRコードのカードを取り子ども本人が打刻する。子どもには退出の自覚を、保護者には退室時間をアプリで知らせることができた。分室の前で一旦整列し、先頭の子どもが点呼をしたあと出発する。校門前で再度コースと人数を職員に報告し、職員がチェックのうえグループ毎に見送りをした。カードを導入することにより、子どもたち自身も自分の帰り方を把握することができ、自覚につながった。帰宅道中は職員の目が届きにくいところが多いので、保護者や子どもたち、地域の方々の声を聞き、今後も見守りや状況によっては同行を行い安全な帰宅を見守っていく必要がある。
		出欠確認	保護者、小学校と連携し、所在確認に努めた。さくらdays導入により、保護者からの欠席や早帰りなどの連絡忘れは減少したが、子どもは欠席と思っていても保護者からの連絡がない場合などはその都度確認が取れるまで子どもを分室に待機させた。入会説明会では伝えているが、学校内に分室があるため学校への欠席連絡だけで良いと思っている保護者も毎年数名いる。また、連絡帳に記載があっても子どもの提出忘れもあり、当日保護者へ確認の連絡を取ることもあった。今後さくらdaysの活用で連絡帳の利用は減ると思われるが、提出の徹底は引き続き行う必要がある。
		手洗い、消毒の徹底	分室入室前、食事・おやつ前、外あそび後には消毒と手洗いの習慣付けをした。子どもたちは習慣的に行ってはいたが、石鹸を使って丁寧に洗えていない子どもやハンカチ忘れの子どもは一定数いた。ハンカチを持ってきていない子どもにはペーパータオルで対応し、ハンカチを持ってくるように声かけし周知したが、改善にはつながっていない。子どもの意識も以前と比べ低くなってきているので、継続的に声をかけていく必要がある。来年度からは昼食後、及びおやつ後の手洗いの声掛けも行っていきたい。
	健康の管理・情緒の安定	おやつ提供	ホワイトボードには毎日おやつの実施時間とその日のメニューを掲示する。10分前に声掛けとその日の当番を口頭でも知らせる。準備を始めることで時間内に見通しを持っておやつを食べに来る子どもがいる反面、今年度は当番に呼ばれてもなかなかおやつを食べに来ない子どもも一定数いておやつ時間が通常より長引くこともあった。また、安全と衛生を考え個包装のおやつを提供しているが、あそびを優先するあまり、急いで食べようとする子どもや、封を開けずに持ち帰る子どももいる。子どもたちが生活の中で楽しみにしている時間なので引き続き衛生管理に配慮しながら、おやつを提供を続けていきたい。アレルギー対応の必要な子どもには保護者に事前に内容を写真付きで伝え、代替のおやつに名前付きのクリップで区別をつけた。 出席日数でおやつ代を徴収しているため、年度末に残金がある場合は返金を行った。お菓子の単価が値上がりしているため、次年度は一日当たりの金額を少し上げて、子どもたちが食べるおやつのリポートリーを増やしていきたい。
		学習環境の整備	学習環境作りのため、分室内にパーテーションを設置し室内を二分した。場所を仕切ることで子どもたちも宿題に取り掛かりやすかった。一つの建物の中なので静かに学習できる環境ではないが、分室に帰ってきたらまず宿題をする習慣のついた子どももいる。場所の都合でおやつ時間には場所を空けなくてはならないため、帰って来る時間が遅い高学年の子どもは、周りに人がたくさんいて遊んでいる中で宿題を取り組まざるを得ないのが現状である。衝立を設置することで見通しが悪くなり全体の状況把握がし辛いことはマイナス部分である。 土曜日や長期休暇中の9時～9時45分は学習・読書の時間とし、学校が休みの日も一日のリズムが作れるように設定した。
		5時以降の保育	育成室のみで最初の30分は宿題と読書の時間とし、その後は座ってあそび保護者の迎えを待つ時間とした。日によっては落ち着きがなく、ルール再確認が必要だった。
	基本的生活習慣の確立	子どもの状況把握	さくらdaysの活用や連絡帳、迎えに来られた保護者と情報交換を行った。また、必要な場合は電話で子どもの状況を伝え保護者と共有を図った。6月・1月に個人懇談会、7月・12月・3月に保護者懇談会（入会説明会を兼ねる）を実施する。また、子どもの状況に合わせて必要であれば、随時面談を行った。その他、小学校や近隣保育所・園との連携により子どもたち一人ひとりの状態を把握することができた。今後も継続的にやっていく。 学年を超えて一緒に好きなものであそぶことで仲間意識が育ち、互いに理解し合えるようになり、友だち関係が広がっている。あそびのなかでトラブルになることもあるが、話し合いをもち乗り越えていくことで、問題解決の方法を学び楽しく過ごす方法を身につけられるよう促した。平日はあそびこめるほどの時間がないこともあるが、できる限り小学校の運動場に出て、体を動かす自由あそびの時間を確保してきた。今後も子どもの状況を見ながら、あそび時間の確保を大切にしていきたい。 本館、分室ともに利用者が増えたことで合同で過ごすことは少なかったが、行事によっては職員引率のもと、本館・分室を行き来し交流を図った。今後も出来る形での交流方法を大切にしていきたい。

社会生活技術の獲得		整理整頓	分室に帰ってきたらすぐに荷物を片付けるよう指導した。自分の荷物の管理が出来ていない子どもにはその都度指導をする必要があった。ロッカーはランドセルを入れるだけでいっぱいになってしまうため、ロッカーの上にカゴを置き、入らない荷物はまとめていれるように、また水筒も学年ごとにかごに入れるようにした。しかし早帰りをする子どもが持ち帰るのを忘れることが多いため、早帰りの子ども専用のカゴを玄関近くに置き、そこに入れるよう声掛けをしたが、早帰りの人数が多い時などはカゴが場所を取ることで部屋が狭くなってしまい定着することはなかった。玄関の内側にも忘れ物はないかの掲示をし、見て気づくよう工夫したが、効果はあまりなく、その都度忘れ物はないかの声掛けで確認させてから出すことが多かった。冬場は上着など荷物が増えるため量み方を伝えたが、ロッカーにスペースがなく突っ込まないと入らないためあまり身につかなかった。また、個包装おやつやの落とし物は声をかけても名乗り出ないことが多い。鞆の中に片付ける声掛けを継続して行いたい。
		遊具の片付け支援	次のあそびに移る時やおやつ前・帰りの会前には、使っていたおもちゃを片付けるように指導をした。片付けを忘れる子どももいるが、子どもたち同士で声かけをしたり手助けする様子も見られた。本などは、出しっぱなしや整理できていない時はすぐに声をかけて指導した。折り紙は、使う色と名前を表に記入してから申し出る方法が定着している。1年生はルールが入りにくく職員の度々の声掛けが必要だったが、高学年の子どもから分室会議で話し合うことの提案があり、子どもたち自身で約束事を決める。問題が起こった時は子どもたちから話し合う場を希望し、分室の生活は自分たちで決めることが昨年度から定着している。
		時間の管理	おやつや片付け、帰りの会、取組などは事前に開始時間を伝え、時間通りに始めるにはどう行動すればよいかを子どもたちに考えさせた。自分たちで声をかけ合い行動する姿もある。運動場に出る前は一旦並び、あそび終了時間を伝えてから出るようにしたが、毎回出発までに時間がかかってしまう。音楽が流れるのを合図とし行動するきっかけ作りは雨天時にのみ行ったが、外あそびに出る準備の時間に流しても良いかもしれない。
		挨拶の励行	帰館時に「ただいま」、おやつ・昼食時に「いただきます」「ごちそうさま」など基本的なあいさつの励行を指導する。今後も引き続き、あいさつの励行をしていきたい。
		当番活動	おもちゃや本の整理、点検などを当番全員で行い、3年生には帰りの会やおたんじょうび会の司会などを当番活動とした。下の学年は司会に憧れを持つ姿があり、進級への期待感につながった。また、当番にあたっている子どもはおやつをまだ食べていない子どもに声掛けをする活動を取り入れ、後期からは机出しからの準備も行うようになる。積極的に当番活動をするのは低学年の子どもたちが多かった。高学年は帰ってくる時間が遅い事もあるが、学年ごとに当番活動内容を変えても良いかもしれない。
生活体験の拡大		班編成・班発表	縦割りで班を編成することで、異年齢の仲間づくりを目的とした。日常ではおやつやの机出し準備、おもちゃの片付けや帰りの会での司会など当番活動を行う。長期休暇期間の朝の会は、上の学年がメンバーを呼び、班ごとに並んで座り、互いにその日のメンバーを確認する。昼食準備や食べる時間枠も班ごとに行う。けん玉の取組やけん玉検定は班単位で行い、みんなであそぼう！などの行事活動では班を基本で集合し活動した。1年生はなかなか定着しなかったが、流れや活動内容を具体的に説明することで後期には意識をもって活動するようになった。
		おたんじょうび会	月1回お誕生月の子どもをみんなでお祝いし、誕生日カードとキャンディレイをプレゼントする。キャンディレイは見栄えもよく、子どもたちも喜んで持ち帰る。誕生日カードは子どもたちが自分で好きなことや大きくなってやりたいことなどを書いたりするため、保護者にも好評であった。低学年と高学年で設問を分けたことにより、高学年のカードも楽しんでもらえる内容となった。 当日は、当番の3年生がお誕生月の子どもにインタビューをし、司会者としてその子に関するクイズを出す。その子の好きなことや将来の夢などを知る機会となり、盛り上がった。特に1年生は自分の誕生月がくるのをとても楽しみに待っていた。
		みんなであそぼう！	普段同学年や仲の良い友だち同士でのあそびが多いが、3年生が企画を担当し、集団でのあそびの楽しさを知ってもらえる機会となる。 8月に3年生企画として実施する。夏休みを利用したことで準備期間も長く、充実して当日を迎えることが出来た。当日は小学校の体育館をお借りし、3年生の司会進行で「おおかみさん今何時」、「だるまさんがころんだフープ」のゲームを1年生から5年生までの異年齢集団の子どもたちが楽しむ姿があった。
		おかいものごっこ	夏休みにお買い物の疑似体験を行う。金券渡しから店員まで高学年が担当し、同じ看板のかごから自分の好きなおやつを選ぶ。好きなおやつが選べるため子どもたちには大人気の行事である。しかし、おやつ代を明瞭にするため返金しているのでおやつの種類を多く用意することができない。来年度は違う方法で実施ができないか再考の必要あり。
		ハロウィンおやつ	ハロウィンの装飾をした箱の中に入っているボールと同じマークのおやつがもらえるゲーム性をもたせたおやつを提供をした。アレルギー対応が必要な子どもも選べるお菓子を準備したため、皆と同じおやつを食べる楽しさを感じてもらえた。いつもと違うおやつはうれしかったようで、時間をかけて食べる子どもも多かった。

子ども育成機能	社会性の養成	職員との顔あわせ	入学式のあと、小雀ひろばで担当クラス職員との顔合わせをし、花をプレゼントする。親子で写真撮影を行った。入学式後に来てもらったため、来られる時間が重なってしまうことで待ち時間が長くなってしまうことがあった。短時間ではあるが保護者と直接話ができる良い機会である。他学年は本館にて通常保育を行い、顔合わせ終了後分室へ移動し保育を行った。
		けんだまの取組	夏休みの午後を利用し、班ごとに隔日で毎日練習を行った。事前にカレンダーで予定を掲示し、子どもたちも見通しを持って取り組むことが出来た。上級生の姿を見て、子どもから子どもへの伝承を意識した。上級生の姿を見て、憧れを抱き一生懸命練習する下級生の姿もあり良かった。継続して練習することでの達成感や喜びを感じていけるように、今後も大切にしていきたい。「じゅらくこどもまつり」の発表で、けんだま披露を保護者に見てもらう機会を作ることも出来た。
		Tシャツを絞ろう	夏休みを利用し一人1枚オリジナルのTシャツを染める。絞りのみの簡単な作業で、染めは職員と本館の3年生が行ったが、子どもたちは完成を楽しみにし、夏休みの恒例行事となっている。Tシャツのたたみ方を教え、自分で畳んで袋に入れるところまでを子どもが行った。日常的に着用する子も多く、「こどもまつり」でも着用する機会を作ることができた。
		じゅらくこどもまつりに向けての取組	学童クラブの子どもたち全員でけんだまの発表を行った。日常の帰りの会や自由時間を利用し、日々練習を行った。当日、保護者からは好評だったが、発表の時間がこまの自由体験後だったため、子どもたちも観客も集中が解けたようになってしまい残念だった。あそびのコーナーの運営は、3年生が担当する。本館で合同会議を開き、「何をするか？どう説明するか？」などの話し合いの場を持った。当日はそれぞれがコーナーの担当として責任を持って活動する姿に、子どもたちの成長が感じられた。その姿は次の3年生にも来年の姿をイメージすることができた。
		3年生会議	目標を決めてみんなに伝えたり、みんなであそぼうを企画、運営したりと毎月1回会議を行い学童クラブのリーダーとして活動する。今年度の3年生は人数が5名と少なかったが、協力しあい、得意なことを率先して行う姿や助け合う姿が見られた。
		2年生会議	新年度に向けての意識付けを行う。特に3年生として学童クラブの中心メンバーとしてリーダーシップをとってほしいことを伝える。4月に行う「入会おめでとう会」の企画・また新入会の子どもへのプレゼントを作成し、期待感を持ちながら新年度を迎えられるよう取り組む。1月から全体に向けて繰り返し進級と役割について話していたため、意識も高く会議には意欲的に参加する姿が見られた。
		1年生会議	新年度に向けての意識付けを行う。1年間の学童生活を振り返り、楽しかったことや悲しかったことを思い返す。楽しい気持ちが増えるように自分は2年生になってどうしたらよいか、また上の学年に生まれてもらって嬉しかったことなどを具体的に挙げながら自分で考える機会とした。今年度は3月に2回に分け実施する。
		高学年会議	学童クラブの高学年として、日常をどのように過ごせばよいか、子どもたちは意見を出し合いながら、話し合うことができた。高学年は年間を通しておもちゃや本の管理を担当する。子どもたちの意見を取り入れながら新しいおもちゃや本を出す時には皆の前で紹介と使い方の説明や注意をする役割を担当する。後期は紙芝居の読み聞かせを担当する。会議という形を取れない場面もあったが、声を掛け合い集まって相談する場面が多く見られた。
		分室会議	分室で過ごす中で様々な問題が持ち上がった時に子どもたちからみんなで話したいと声が出たのをきっかけに、昨年度から引き続き実施する。司会、書記は高学年が担当する。分室で困りが起きた時に、事前に告知し話し合いの場を持つ。また、帰りの会での発表で課題が持ち上がった時には急速3年生や高学年が司会を担当し、話し合いを行う。子どもたち自身で考え決めた事は、守ろうとする姿が見られた。みんながどうすれば心地よく分室で過ごせるかを子どもたち自身が意見を出し合い考える良い機会となる。
		ワクワク思い出パーティー	本館と分室の3年生が企画・準備をしたゲームを朱六小学校の運動場で行う。イベント名も子どもたちの案を採用する。相談・決定後は日常のあそびの中で作業日を決め、声をかけあい進めるが、3年生が揃う日は少なく、作業は難航した。当日は意識を持って取り組み、達成感を感じられた様子である。全員で楽しむことが出来て、良い1年間の締めくくりのイベントとなった。
子育てに必要な情報の提供と交換		水族館へ行こう	朱二小、朱六小の休日参観代休日が同日だったため、合同で館外活動を行う。コロナ禍以降久しぶりの館外活動を徒歩とJRを利用して京都水族館へ行く。館内移動は班ごとに移動したが、上の学年は皆の意見を聞きながら集団行動を取っていた。
		保護者懇談会	7月・12月・3月に保護者懇談会（3月は入会説明会と併せて）を実施する。7月は4月からの子どもたちの様子と夏休みの過ごし方についてを伝える。12月には子どもたちの日常を写した写真をスライドショーで上映し、分室での様子を知っていただく機会を設けた。保護者からは子どもの様子がよくわかり良かったと感想をいただく。3月は入会説明会後に実施したため、年度末で終了となる子どもの保護者の参加が少なく残念だった。
		保護者アンケート	学童クラブ1年間の生活・活動についてのアンケートを実施する。来年度の学童運営の参考資料とする。アンケート集約は3月の保護者懇談会で配付した。

子育て支援機能	子育ての仲間づくり	入会説明会	新年度登録家庭を対象に入会説明会を行い児童館・学童クラブの内容・方針を伝える。全家庭対象とし実施する。当日の欠席者は個別に対応を行った。
		新入会児童個人懇談	新入会児童を対象に、個別に面談を行った。子どもの様子や保護者の思いを聞くことの出来る機会となった。
		個人懇談	6月は新入会児童の家庭と、2年生以上の希望家庭を対象に、1月は希望家庭対象で行う。分室や家庭での様子を保護者と直接話をする事で、共有できる機会となる。
	子育てを支えるネットワーク形成	お弁当なしの日	保護者の負担軽減のため、夏休み・冬休みに昼食を用意した。保護者会の協力により、夏休みに2回、冬休みに1回実施する。事前にメニューを配布していたため、アレルギーのある子どもだけでなく他の子どもたちも当日を楽しみに食べることが出来た。
		保護者会との連携	「じゅらくこどもまつり」実施に向け、保護者会と密に連携を取る。絞り染めの製作費やお弁当なしの日の昼食代を補助してくださる。その他必要に応じて個別に保護者会役員と連携を行う。
		小学校担任との連携	年間を通し随時各学年担任、校長、教頭、教務主任、養護教諭と子どもについての共有を図る。気になることがある場合はその都度話をし、共有する。
		保育園・所との連携	新1年生の出身保育園に出向き、担任と子どもについての情報共有を行う。 R7年度に向け、年度内に面談をそれぞれ行う。